

# 全さんま棒受網地域漁業復興プロジェクト（宮城地区部会・大型Ⅱ）

事業実施者：全国さんま棒受網漁業協同組合

使用船舶名：第三鹿島丸(199トン)

支援期間：平成29年12月10日～令和2年12月9日

（さんま棒受網漁業）

## （取組の内容）

### ● 省エネ・省コスト化：

同一船型船による建造コスト削減及び省エネ船型、大口径固定ピッチプロペラ、低燃費型機関、LED漁灯の採用等による燃油使用量の削減を図る。

### ● 漁船の安全性・労働環境の向上：

二重バラスタンクの設置等による船体復原性の改善、省力機器の導入等により、労働環境及び乗組員の労働意欲の向上を図る。

### ● 漁獲物の付加価値向上・高度衛生化：

船上箱詰とブロック凍結品の生産及び高度衛生管理により、流通段階における付加価値向上及び衛生管理を図る。

新船導入 第三鹿島丸



ブロック凍結品生産



## （事業の成果）

● 共通の仕様・船型の新船建造により**建造コストが約10%削減（8千万円以上）**された。

● 主機関の低重化及び二重バラスタンク設置したことで**復原性が改善され**、また、省力機械の増設（サイドローラー・ミニボールローラー）による**作業時の網揚作業の軽労化**が図られた。

● 海水滅菌装置を導入したことにより、鮮度保持が向上するとともに、新しい市場の整備により**高度な衛生管理が確立され**、**安心安全で高品質な漁獲物の供給**ができた。

船上箱詰とブロック凍結品の生産は実証各年において、さんま漁獲量が少なく、生鮮価格の高騰により、生鮮販売を中心に水揚げしたため、3年平均で船上箱詰308箱（計画300箱の103%）、ブロック凍結品129箱（計画300箱の43%）となった。3年目は漁獲が特に少なかった漁期初めに、付加価値向上のため船上箱詰を計画生産した。

● これらの取組により、水揚量（3年平均1,270トン）は計画（2,560トン）の約50%であった一方、平均単価（312円/kg）が計画（156円/kg）の2倍であったため、水揚金額（3年平均397百万円）は計画（400百万円）をほぼ達成した。

● **償却前利益は、3年平均64.8百万円となり**、次世代船の建造までの年数は、**計画25年を約12年上回る結果**となった。